

桃山中学校の象徴「オープンステージ」

宇部市立桃山中学校長 寺本 実 春

1 オープンステージの歴史

本校には、すり鉢状の野外舞台「オープンステージ」があり、特色あるデザインの施設となっている。このオープンステージは、熊本隆治初代校長の「生徒に文化や芸術に触れる機会を」そして「ギリシャ時代風の芸術の香りがするものを」との意向で、1950年（昭和25年）に完成した。コンクリート造りで舞台には雨よけの屋根があり、前方に十段のスタンドが設置されている。中央には池も配置されており、完成当時、地元新聞紙には「日本の学園では初めてのオープンステージ」「古代ギリシャの夢、再現」という表現で伝えられ、学校施設としては画期的なものと評価された。これまで桜の下での入学式、生徒集会や文化祭のステージ発表など、いろいろな学校行事の会場として使われ、母校のオープンステージに思い出をもつ卒業生も多い。



オープンステージの舞台

2 老朽化に伴う改修

築後、半世紀以上が経過して痛みが目立ち始め、安全性にも問題が生じたことから使えない時期があった。当初は撤去も検討されたが、卒業生やPTAの有志たちを中心に、「桃山中の象徴でもあるオープンステージを改修して残したい」との気運が高まっていった。そして、改修するための寄付を集めるだけでなく、これを機に、みんなで思い出を振り返りながら再生しようと、全国の卒業生に思い出を書き込んでもらうホームページを立ち上げたり、同窓会組織等に協力を呼びかけたりして、賛同者・団体を募りながら保存運動を本格化していった。その後「桃中オープンステージ再生の会」が発足し、輪も広がって多くの賛同者・団体から寄付等の支援を受け、桃山中の象徴「オープンステージ」の再生（創立60周年記念事業での改修落成・記念式典）が叶った。



十段のスタンド

3 オープンステージの活用

現在、いろいろな行事の会場として使われ、昼休みには生徒の憩いの場にもなっている。また時折、地域の方々が見学に訪れるなど、親しみを寄せていただいている。今後さらに「地域に根ざした、地域とともにある学校」を目指して、オープンステージの活用を呼びかけ地域の交流の場にすることで、地域活性化の拠点の一つになればと考えている。



創立60周年記念式典（改修落成）

我々には 遠大な夢がある 不断に伸びゆく 生命の神秘を信じ
日に新に 日に新に 天行の健なるが如く 自らつとめ つとめてやまず
心と力を合わせ 理想の学園 桃中を建設せん 「建設の譜」

熊本隆治初代校長が記した「建設の譜」は、理想の学校づくりの礎となっており、歴代校長の学校経営に引き継がれている。